

7億7300万円増の総額82億5200万円を見込みました。これは、保険料の約59%を占めています。

一方、健保組合財政を圧迫している納付金は、後期高齢者支援金の算定方法に総報酬割が導入されたことにより1億7000万円増加され、総額で同比3億4400万円増の61億6000万円を見込みました。これは、保険料の約42%を占めています。

各種健診の実施やイベントの開催、広報活動の保健事業費は、同比2100万円減の6億4500万円を見込んでいます。経費削減のため本誌「すこやか」の発行回数を年6回から年4回に減らしますが、各種健診については引き続き重点事業として充実を図り、各イベント

も従来の規模で継続して実施いたします。支出総額では、16億7000万円（同比9億7000万円増）の予算としました。

4

収支

経常収支は10億3200万円のマイナス

平成23年度は、保険料率を12%引上げて、経常収支差引き10億3200万円の赤字となり、健保財政は、引き続き厳しい状況にあります。そうした財政状況でありながら各種健診等の

事業を充実するということは、組合が実施する健診事業を健康の保持・増進に活用され、ひいては医療費の節減につなげていこうというものです。なお、平成23年度の実質保険料率は89・43%となり、来年度は別途積立金もなくなることから、さらなる保険料率引上げが必要となります。当組合では今後も引き続き積極的に組合編入を行い、円滑な事業運営を推進し、なお一層の財政の健全化を図ってまいります。経済情勢の不透明さが続くなか、事業主ならびに被保険者の皆様には負担増をお願いすることとなりますが、健保財政の現状にご理解をいただき、医療費の節減等、組合の事業運営にご協力をお願いいたします。

## 介護保険（介護勘定）

### 納付金増加により保険料率を2%引上げ



納付金は8200万円の増

当組合では、一般勘定と同様に平成20年度に法定準備金を繰入れて、保険料率を1%引下げの10%としました。

しかしながら納付金の増加により、平成23年度予算は法定準備金を6482万円繰入れ、介

護保険料率を2%引上げ12%とすることと決定しました。

収入は、被保険者数1万7632人、平均標準報酬月額42万5556円とし、介護保険料収入は13億3300万円、繰入金等約6500万円、収入総額13億9800万円の予算としました。

支出は、介護納付金13億9700万円で、対前年度比8200万円増となっています。支出総額では13億9800万円（同比8200万円増）の予算としました。

## 介護保険（介護勘定）

### 収入

科目	予算額	1人当たり額
介護保険収入	1,333,463 千円	75,627 円
繰入金	64,820	
雑収入	36	
収入合計	1,398,319 千円	

### 支出

科目	予算額	1人当たり額
介護納付金	1,397,318 千円	79,249 円
介護保険料還付金	1,000	
積立金	1	
支出合計	1,398,319 千円	